

Title	前號正誤表
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.2 (1955. 9) ,p.134(266)- 134(266)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550900-0134

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

れた大甕のことである。

一體、多數の例からみて、經筒の外套、或は筒自體も、多くはあり合せの、比較的多く酒器等によつて代用されることが多く、却て經筒外套として特に製作せられたものは少ない。この二例でも片口蓋及び甕は家用のものを使用したものゝ如く思はれる。

特に菅江翁のスケッチでは片口の内部はうかがわれな
いが、私の實見した片口は極めて特徴的で、ロクロ目を
裝飾的につけて、ヘラで流し溝を三本刻んである。

この様式は残り粕の多い液體に用ふるもので、菅江翁
の圖には底の高台（糸切のまゝ）にヘラ書きらしく「份
」又は「例」の如き文字がみえる。徑、高等もほゞ似た
るものである。残り粕の多い液體で、且つ比較的、感覺
上賤用でない器といへば、第一に考へられるのは酒であ
る。酒器を經筒として用ひた例は極めて多く、瀬戸瓶子、
青磁、白磁、陰青等の宋磁等は甚だ多い。この思想はこ

の器が須惠であつても共通と思はれる。

白山姫社と修驗道、酒器と經筒の一類型、こゝに出羽
の國の特殊な型式を見ることを得たと解するのは不當で
あらうか。特に白山姫社はあの時代この地方の信仰を象
徴するものとして、その平地に屹立した姿、觀世音との
結合、それを通じての天台等の布教の發展、佛教文化に
結合する奥羽貴族の生活文化、等々の點に於て興味ふか
い示唆を與えられるのである。

前號正誤表

頁	行	誤	正
一一四	14	「東海道。」	「東海堂。」
一一五	2	「東海道。」	「東海堂。」
一一五	13	「東海道。」	「東海堂。」
一一九	3	「浮世繪五十年史」	「浮世繪五十年史」